

2 航路をゼロに

アメリカ綿の貢献内容

土地利用効率13%増と 土壌侵食50%削減公約で 食料生産に貢献

最新技術を活用した精密農業を積極的に取り入れ、持続可能な農業を営んでいます。これにより2015年までの35年間にわたり土地利用を31%削減、土壌侵食も44%削減しました。

さらに2025年までに土地利用を13%削減、土壌の侵食も50%削減するよう目標を設定し、環境負荷削減に向けて努力を続けています。

綿畑では、ライ麦や小麦などの被覆作物を二毛作することで、土壌の健康状態を改善し、より多くの食用作物を生産できるようになっています。また土壌効率を上げて土壌損失を50%削減することで、食用作物のためのより多くの耕作地も確保し、食料生産に貢献しています。



6 安全な水とトイレを世界中に

アメリカ綿の貢献内容

水使用18%削減を公約 流出水質の向上

全世界での棉花栽培による水使用量は、世界の農業用水のわずか3%ですが、アメリカ綿生産時の水使用効率は世界最高水準です。

アメリカ綿作地の3分の2では雨水のみで栽培し、残る3分の1の雨量の少ない地域では、雨水に加えて補足的に灌漑を行ったり、もしくは灌漑のみで栽培されています。灌漑を行っている農地では地中に水分センサーを埋め込み、土地の乾燥状態をモニタリングするなど、ハイテク最新技術の利用で、水の利用率は2015年までの35年間で82%向上し、さらに向上を続けています。2025年までに18%の水使用削減を公約し、さらに流出水質の向上にも取り組んでいます。



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

アメリカ綿の貢献内容

エネルギー使用 15%削減を公約

2015年までの35年間で、すでにエネルギー使用を38%削減し、非常にエネルギー効率の良い棉花生産法を、さまざまな工程で採用しています。

さらに耕起の削減に伴うトラクターの使用の減少、精密農業とハイテク機器の導入で窒素系肥料の使用を減らしたり、清掃用のロボット装置の使用や繊維から種を引き離しやすくするための遺伝子編集でジン工場での作業効率化を図るなど、多方面で努力を積み重ねることで、2025年までに棉花生産で使用されるエネルギー量の15%削減を目指しています。



8 働きがいも経済成長も



アメリカ綿の貢献内容

棉花生産における 適切な労働条件 能力開発と バリューチェーンの創造

棉花生産家には、職場環境に関して労働安全衛生から厳しい規制が課せられています。これにより労働者は、安全な職場環境と公正賃金、公正な扱い、強制労働の禁止が保証されています。

労働者は家族の一員のように公正に扱われ、農場の成功は彼らの扱いにかかっているという過言ではありません。農場主は、労働者がトラクターを安全に使用したり、農薬の正確な利用法など、常に彼らの能力開発のための研修も実施しています。

アメリカ棉花業界は、さらにバリューチェーンの創造にも取り組んでいます。具体的には棉花栽培技術の向上と生産管理の徹底により品質の安定と生産性の向上を果たし、アメリカ綿の付加価値向上を図ります。またマーケットへのアクセスを試み、サプライチェーン各段階とのさまざまな信頼関係を築いていきます。

17 パートナリシップで目標を達成しよう

アメリカ綿の貢献内容

官民および市民社会の パートナーシップ 能力開発と バリューチェーンの創造

アメリカの棉花業界は、アパレルや小売業者、世界自然保護基金(WWF)や環境防衛基金(EDF)などの市民社会とパートナーシップを結んでいます。

また世界中の持続可能な棉花栽培の改善に貢献するべく、米国内外に向けたプログラムを通じて、様々な活動を実施しています。サプライチェーン全体の環境への影響を軽減するための成功事例や学習の共有を促進したり、開発途上国の工場に無料のコンサルティング・サービスを提供する専門技術チームを育成するなど、アメリカ綿の付加価値を高めるべくバリューチェーンの創造を実践しています。



COTTON USA 特集 VOL.5

アメリカ綿で SDGsに貢献

人と環境に優しくサステナブルなアメリカ綿を使うと
国連の持続可能な開発目標(SDGs)に貢献できます

アメリカでは、環境保護庁、米農務省、労働安全衛生庁によって、食品安全や環境、職場規則が定められ、厳しい法規制のもとで責任ある棉花生産が行われています。この号では、アメリカ綿がSDGsのどの目標に貢献しているかをご紹介します。



12 つくる責任 つかう責任


アメリカ綿の貢献内容

持続可能で責任ある テキスタイルの選択 定期的な追跡と報告 継続的な改善

サステナブルで責任ある綿作を実践する農家は、栽培や労働環境、作物についての厳しい法の監視のもと、業界全体で人にも地球環境にも配慮した、安全で持続可能な棉花生産体制を整えています。

アメリカ棉花業界は、35年間にわたり、土地利用や土壌侵食、水利用、エネルギー使用、温室効果ガス排出などの環境負荷の削減を達成しましたが、さらに環境負荷軽減のための2025年までの達成目標を設定し、それを検証する「U.S.コットン・トラスト・プロトコル」を策定しました。このプログラムに参加する農場は、土壌の状態や水利用、植物保護製品の使用、公正労働など9つのカテゴリ、120の質問項目について回答し、環境負荷に関する主要項目のデータを入力しなければなりません。さらに第三者機関の諮問を受け、検証されます。

このように、アメリカでは環境負荷軽減に対して追跡し数値でデータを報告し、継続的な改善に取り組みながら持続可能な生産形態を確保しているため、アメリカ綿製テキスタイルを使用することは責任ある選択であると言えます。



15 陸の豊かさも守ろう

アメリカ綿の貢献内容

土地利用効率13%増を公約 土壌侵食50%削減を公約 土壌炭素30%増を公約

アメリカ綿は、17州にまたがるコットンベルトと呼ばれる地域で、16,000軒の農家によって生産されています。その97%以上が家族経営で耕作地に暮らし、代々受け継ぐ畑で棉花を作り続けています。畑が未来の世代に向けた唯一最大の資産なのです。そのため、いち早く精密農業に取り組み、高度なハイテク技術を用いてサステナブルな農法で栽培し続けています。その結果、過去35年間で44%の土壌侵食を削減し、健全な土壌を保全することで生産性を向上させてきました。

アメリカ棉花業界は、サステナブルな棉花生産の新しい基準を策定するために、2025年までに土地利用効率13%増加、土壌侵食50%削減、土壌炭素30%増を公約。継続的な改善とイノベーションに取り組むことにより、土壌の侵食を制限し土壌を劣化させないように保護しています。こうした活動は、野生生物の生息地を保護することにもつながります。






14 海の豊かさも守ろう

アメリカ綿の貢献内容

水使用18%削減を公約 流出水質の向上

最新ハイテク技術を駆使した精密農業を行っているの、総合的な病害虫管理や肥料、化学薬品を適量だけ適切に使用することができ、その結果、土壌の富栄養化が軽減し、海洋酸性化の最小化に貢献しています。

また水やエネルギーの効率化、被覆作物の利用で土壌の健全化に努めているので、流出する廃水の水質も向上しています。





環境負荷削減に努めた35年の実績、さらに未来へ 2025年までの目標値達成に向けて「U.S.コットン・トラスト・プロトコル」を設定

アメリカ棉花業界は責任ある棉花生産を約束し、2015年までの35年間に大規模な環境負荷削減を実施してきました。さらに高いレベルを目指して、2025年までのサステナビリティ基準測定と目標達成を検証する「U.S.コットン・トラスト・プロトコル(U.S. Cotton Trust Protocol)」を策定しました。

これは、アメリカ棉花の生産慣行とそれによる環境への影響を記録するためのデータ収集、測定、検証に関する統一手順を定めるものです。収集されたデータは、目標達成に向けた進捗状況を評価することができ、世界中の繊維サプライチェーンに向けて、アメリカ綿が責任ある方法で生産されていることを、具体的に透明性の高い形で証明します。

参加生産者は、チェックリストにより最良実践の自己評価を行うとともに、フィールドトゥマーケットが提供する、サステナビリティの主要指標を定量的に測定できるデータツールを導入し、「フィールドプリントプラットフォーム」を通じてデータを共有します。さらに無作為に抽出されたデータサンプルは第三者機関によって検証されます。



35年間の環境負荷削減

土地利用	土壌侵食	水使用	エネルギー使用	温室効果ガス排出
31%削減	44%削減	82%削減	38%削減	30%削減

2025年までの目標値

土壌炭素	30%増加	土壌侵食	50%削減
土地利用	13%削減	水使用	18%削減
温室効果ガス排出	39%削減	エネルギー使用	15%削減

U.S. COTTON TRUST PROTOCOL
Trust in a smarter cotton future

13 気候変動に具体的な対策を

アメリカ綿の貢献内容

温室効果ガス39%削減を公約 エネルギー使用15%削減を公約 耕起と窒素の削減 CO2削減と隔離

コットンは植物繊維です。成長過程で光合成によって温室効果ガスを大気中から吸収するので、気候変動対策に貢献します。

その上アメリカ棉花業界では、過去35年間で30%の温室効果ガスを削減してきた実績があります。

さらに2025年までに、温室効果ガス39%削減を公約しています。この公約は、総合的な病害虫管理、被覆作物の使用と耕起の削減で土壌の健康状態を良くして、土壌炭素の30%を増加させたり、先端技術の採用、遺伝子技術の導入、窒素肥料の製造や収穫、綿織り、耕起など、全ての工程におけるエネルギー使用量の15%を削減することにより達成します。

